



学校だより

No.550

令和 5年 6月30日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一 雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

夏休み 富士登山の思い出

校長 岩井一雄

小学校四年生の夏休み、父親から富士登山を持ち掛けられた。高度経済成長の時代、今日より明日の生活が豊かになることを信じて猛烈に働いていた父が、息子との思い出づくりを、と思い立ったらしい。

新宿駅から高速バスに乗車した。バスは中央高速道路をひた走り、河口湖インターを經由し、五合目を目指し富士スバルラインを登る。

美しい富士山の自然を間近で見られることを想像して、わたくしは心を躍らせていた。しかし、標高二千メートル付近で衝撃的な光景を目にすることになった。道路建設によって生態系のバランスが崩れて枯死したシラビソ樹林と崩れ落ちた岩肌が、白骨のように続いていたのである。自然破壊とはこういうことか、と心が震えたことを記憶している。

五合目からはいよいよ登山が始まる。六合目までは比較的傾斜も緩やかであり、道端には高山植物も散見されて、ようやく富士山にきたという実感を得たように思った。しかし、六合目から先は陰しい登りとなり、たちまち息が上がってしまった。

登りがきつくなるとともに目につき始めたのが、登山道脇にうち捨てられたおびただしい数のごみである。ジュースの空き缶、空き瓶は言うに及ばず、登山中に人間が排出したありとあらゆるものがばらまかれて積み上げられている。中にはビニール袋に入った甘夏みかんの皮のように、昨日今日投げ捨てられたものもあった。人々は富士山を登山のためだけでなく、ごみ捨て場としても使っていたと言っても過言ではなかった。その光景と匂いには親子で辟易とした。

八合目の山小屋に泊まる。高山のため沸点が下がり、ご飯はボソボソに炊けるという話が本当であることが分かった。少しばかり仮眠をして夜半に目を覚ますと、猛烈に頭が痛く気分も悪い。高山病である。ふらふらとしながら、懐中電灯を灯し、頂上を目指す。登山道は人、また人の大渋滞。懐中電灯の列が頂上まで続いている。ご来光にはとても間に合うまい、と思ったが、目指す頂上が見えていると力が湧くこともあり、なんとか頂上にたどりつき、ご来光を拝むことができた。

日の出の神々しさと、夜明け後の紺碧の青空の色は素晴らしかった。当時の写真は色褪せたが、親子の記憶はそのときのままだに残っている。生涯忘れることはないだろう。

(その後、富士山の道路周辺の自然は復原が進められるとともに、登山道などの大量のごみは人の手によって搬出され、今もその取り組みが続いていることは、皆さんご存じのことと思います。)

間もなく迎える夏休みが充実したものになることを祈っています。

7月の生活目標

「学校をきれいにしよう」

清掃活動を通して、子供たちには次の二つの力を身に付けてほしいと願っています。一つ目は、誰かに指示されて清掃をするのではなく、きれいにするために、自分は何をすればよいのかを考え、行動する力です。二つ目は、自分のためだけでなく、みんなのために働くことを喜びと感ぜられるような、みんなのために働ける力です。ご家庭でも、夏休みにこのような視点で掃除を見直し、話し合ってみていただけたら幸いです。